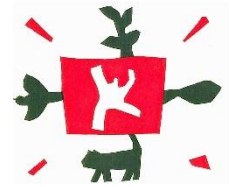




# 公同通信



2025 年 12 月 28 日 351 号 (561 号)

日本基督教団 西宮公同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

## To tell the story 250

説教「サンタクロースってほんとにいるの？」

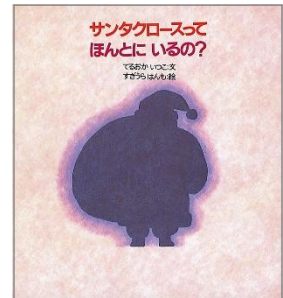
ルカによる福音書第 21 章 25～33 節

2025 年のクリスマスは、12 月 12 日（金）の「合同子どもクリスマス会」、12 月 21 日（日）の「クリスマス記念礼拝」、12 月 24 日（水）の「クリスマス燭火礼拝」などが予定されていて、それを案内するポスターに、「サンタクロースってほんとにいるの？」（文：てるおかいつこ、画：すぎうらはんも／福音館書店、1982 年）の表紙が、そのまま使われることになりました。暉峻淑子は、絵本とは別に、「サンタクロースを探し求めて」（岩波書店、2003 年）を書いています。お父さんが留学ないし、仕事でヨーロッパに出かけていて、そのお土産にヨーロッパのクリスマスの品々を、子どもの頃にもらっていたことの「喜び、嬉しさ」が、多分「サンタクロースを探し求めて」「サンタクロースってほんとにいるの？」になりました。いつかは「卒業」するサンタクロースですが、絵本の

「サンタクロースってほんとにいるの？」は

「問い」を投げかけられた大人・お父さんがその「難問」をそらさずに答えるところが見事なのです。

クリスマス案内するポスターは、「サンタクロースってほんとにいるの？」を、手でもって、誰か・大人が読み聞かせをしているようにできているのが、「なかなか、いい！」と思っています。ちなみに、子どもたちにクリスマス献金をお願いする文章では、ルース・ソーヤーの「とつてもふしぎなクリスマス」（訳：掛川恭子／ほるぷ出版、1994 年）、ルーマー・ゴッ



テンの「クリスマス人形のねがい」

（訳：掛川恭子／岩波書店、2001年）も紹介していて、画は、いずれもバーバラ・クーニーです。



12月12日（金）の「合同子どもクリスマス会」では、3月15日の幼稚園の卒園式以来となるリピート山中さんが歌ってくださいます。そこでは、毎年、クリスマスを記念するカードとバッチが用意されています。

2025年のカードは、「サンタクロースの願い」、そして、バッチは、「サンタクロースってほんとにいるの？」のサンタです。

記念するカードは、ポスターがサンタクロースですから、サンタクロースと決まりましたが、「何を書くか」で、はたと困ってしまいました。そして、何日も何日も悩んだ挙句に出てきたのが、「サンタクロースの願い」です。サンタクロースといえば、「巷」の願いはセールだ

ったり、子どもたちの願いはプレゼントです。「願い」を実現するのがサンタクロースですが、それをひっくり返して「サンタクロースの願い」にしてみました。

（で、サンタさんに電話で、「あんたの願いは、なんでっか」と聞いてみたところ、「そうでんな、いろいろ、モノ・モノ・モノの注文がありまんので大変ですわ」「なんちゅうか、モノ以外のも考えてほしおすわ」と、ぶつぶつ答えてくれました）。

「モノ以外」って何なのか、いろいろ考えた末が、以下の「願い」です。

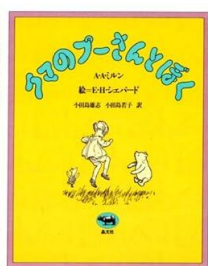
サンタクロースです  
君が好きです  
願っていること

夕焼けを見つめること  
風を感じる事  
涙を流すこと  
忘れること  
願うこと  
笑うこと  
歌うこと  
目を閉じること  
蝶を探すこと  
黙っていること  
風船で遊ぶこと  
考えること  
星を数えること  
立ち止まること  
触ってみること

蟻と歩くこと  
君が一人であること  
君は一人ではないこと  
昨日が今日になったこと  
今日は明日になること

願っていること  
君が好きです  
サンタクロースです

こんなことを書いた後、本棚で見つけたのが、「クマのプーさん」(著：A.A.ミルン、画：E.H.シェパード、訳：石井桃子／



岩波書店、2000 年)、「プー横丁にたった家」の作者でもある A.A.ミルンの詩集、「クマのプーさんとぼく」(著：A.A.ミルン、画：E.H.シェパード、訳：小田島雄志、小田島若子／晶文社、1979 年)です。

訳者あとがきに、「どの詩を読んでも感じられるのは、その中に溢れるユーモアであり、人間らしさです」とありますが、それは、何よりも子どもという存在そのものの「ユーモアであり、人間らしさ」です。ミルンは、多分、子どもたちの存在に「ユーモアであり、人間らしさ」を感じてほしいと何よりも願っていることを、その「まえがき」で、「ユーモアと人間らしさ」を込めて書いています。

例えば、以下のように、時に子どもたちの「ユーモアと人間らしさ」を、感じ

て欲しいと。

ひとりぼっち

おおぜいのひとがいるとき  
ぼくだけがいるおうちがある  
だれもぜったいにはいれない  
ぼくだけがいくおうちがある  
だれにも「だめ」っていられない  
ぼくだけがいくおうちがある  
だれもなんにもいわない  
ぼくだけがいるおうちがある

添えられた E.H.シェパードの挿絵の「ユーモアと人間らしさ」も見事なのです。

祈ります。

(というのが、12月7日の説教で、説教の締めくくりは、ミルンの「朝のさんぼ」の「アン」の風船を割ったりすること」にならって、牧師は「風船の吹き割り」をしてしまいました)。

(菅澤 邦明)



スイバ

## 「新年の誓い??」

新年明けましておめでとうございます。  
(この記事を書いているのは 12 月初旬で、年を越して近い将来の自分に手紙を書いているようで、変な気持ちです。)

例年、12 月のこの時期になると、今年 1 年はこれが出来た、これが出来なかったとかを振り返り、来年はあれをしよう(したい)とか、しなければならないなど書き出すようにしています。そして、「ああ、また今年も出来なかった」と思うことが多くて凹みつつ、「来年こそはあれをしよう！」などと楽しいことを考え妄想する時間を楽しんでいます。

さて、話は変わりますが・・・皆さんは今、どの程度生成 AI を使っているのでしょうか？

代表的な文章生成 AI ですと、ChatGPT や Gemini、画像生成 AI ですと、Midjourney や DALL-E、その他、動画生成 AI や音声・音楽生成 AI など世の中にはたくさんあります。

と書きつつ、私もごくごく一部しか知りませんし、実際に使っているものは本当に ChatGPT (通称：チャッピー) の中の更にごくわずかな機能だけです。

つい 1 年半ほど前までであれば、職場で会議があれば誰かが議事録を作成し、それを参加メンバーに回覧し加筆や修正があればお願いして完成させていたものが、今では、一瞬で議事録作成はもちろん、要約、会議内で話し合った内容に対

する解決策の提案などまでしてくれます。更にその会議内容をプロジェクト X さながらのドラマ仕立ての動画にまでなるのには本当に驚きました。

そんな時代、人間である私(たち)に求められる能力は何なのか？と不安に駆られる方も多いのではないのでしょうか。

そんな不安な気持ちを、チャッピーにぶつけましたら、一瞬にして以下のように回答がありました。

---

「不安になるのは自然なことです。でも「AI 時代だからこそ求められる人間の力」は、決して特別な才能ではなく、今すでに多くの人が持ち、伸ばせる能力です。いくつか整理してお伝えしますね。」と・・・

共感をしたうえで、以下のようにまとめてくれています。

### AI が得意でも代替しにくい、人間に求められる力

#### 1、問題を見つける力(問いを立てる力)

AI は「与えられた問題を解く」のは得意ですが、「何が問題か」「何を指すのか」を決めることはできません。

目的を定めるのは人間の役割としてますます重要になります。

#### 2、コミュニケーション力・共感力

人の気持ちを理解し、関係を築き、調整する力。

これは AI が最も苦手な領域で、どんな職業でも価値が高まります。

### 3、ジャッジする力（価値判断・倫理観）

AI は情報を出せますが「何が正しいか」「何を選ぶべきか」は決められません。

最終的な判断は常に人に委ねられます。

### 4、創造性（既存の枠を超えて考える力）

AI は過去データの延長線で考えます。

人間だけが「ゼロから新しい価値を生む」ことができます。

### 5、学び続ける力

技術の変化が速い時代ほど「柔軟に学び続けられる人」は強くなります。完璧なスキルよりも「変化に適応する姿勢」が大きな力になります。

## 不安を減らすための具体的な第一歩

AI を“競争相手”ではなく“拡張ツール”として試してみる

興味のあることを少し学び続ける

自分が「人と関わるときに大切にしていること」を言語化してみる

小さな成功体験（AI で文章を整える、企画を出す等）を作る

これだけでも「AI 時代でも自分には価値がある」という感覚が育ちます。

---

チャッピーは自分の不得意分野も理解したうえで、ここまで示してくれるわけです。

ネット上に溢れるビジネス書や記者さんの書いた記事や、学者さん書いた論文

などを収集し、要約するところなのでしょう。この収集力や要約力は絶対叶わないと感服します。

すこし話は逸れますが、この原稿を書いている 2 日前、マラソンの大迫傑選手が海外の大会で 2 時間 4 分 55 秒の日本新記録で優勝したニュースが流れました。すでに 34 歳、一度は引退して、そこから再度武者修行を積んでの結果で、驚いた方も多いと思います。更に私が驚いたのは彼のレース予想タイムが 2 時間 44 分 54 秒で、その差 1 秒であったことです。私もつけていますが、多くのランナーは日々の練習でウェアブルデバイス（スマートウォッチ）をつけて走り、心拍数や最大酸素摂取量やピッチ等々のデータが蓄積されていきます。そして、その個人データや世界中のランナーの莫大なデータから先ほどの予想タイムが計算されたのです。

データに基いて予想した AI がすごいのか、それとも、それを実現した大迫選手がすごいのか。私などは、予想タイムがあっても、途中でトイレに行くとそれだけで 2 分や 3 分はズレますし、その日の体調にもより、そうは思う通りに行かないものです。それも含めて人間のやることだと思うのです。

今日、朝 5 時から 2 時間のスロージョギングをしながら、前日まで書きかけたこの文章について改めて考えていました。走り終わる頃、ちょうど近所の高校の

陸上部の生徒が練習を始めていて、路上ですれ違いました。普段通勤途中ですれ違う時も挨拶してくれるのですが、今日は走っている同じ人間として認識してくれてか、いつもより大きな声で「おはようございます」と挨拶をしてくれたように感じました。それは、50 歳を過ぎたおっさんランナーへのエールのようにも聞こえました。

AI も先ほどの回答の冒頭部分のように共感はしてくれますが、やはり人間にしかできないのは、人間と人間の関係だと感じた瞬間です。仮にいつもと同じ大きさの声で挨拶をしてくれていたとしても、それを受け取る側のその日の状態によって受け取り方は異なりますし、その見えない感情の交差みたいな感覚は絶対に AI には無いでしょう（とはいえ、そんなこともいとも簡単に出来るようになる、もしくは私の知らない世界では既に現実化しているかもしれませんが）。というような、取り留めもないことを考えながら走っていたわけです。

そして、帰宅し湯船につかっている時に思ったことは、結局は自分が目の前の出来事をどのように感じ取り、何を大切に生きていくか、何を信じて生きていくのか、それがその人自身の軸であり、それが明確でないと、これだけ情報があふれる時代の中でその情報に振り回され、自分が何者かも分からなくなるということです。

色々堂々巡りをし、改めて今年の行動

目標を決めました。

- ① 何が正しいかを見極める目を養う
- ② 自分の得意なことや好きなことに集中する
- ③ 苦手なことは得意な人に任す

3 つ以上のことは覚えられないのでこれに絞り、更に具体的な内容は自分の手帳にちゃんと書いておきます。

きっとこの程度のことであれば、それこそチャッピーに「行動目標を考えて」と尋ねれば数秒で回答が返ってくるでしょう。でも、自分自身と対話することこそが人間として大切なことだと思います。

また、最後にこの原稿をそのままチャッピーに校正をお願いしたら、もっと端的にまとまった文章となるのも分かっています。でも、それをしない多少下手なことも含めて人間らしさが出ているものと自分に言い聞かせています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

（古谷 佳之）



ランバ水仙



## 今月の畑だより

11月28日（金）には、11月の淡路ワークで（畑作業）で、約900本の淡路産の玉ねぎの苗を植えました。苗も畑も淡路ですから、5月ごろにホンモノの「淡路玉ねぎ」を抜くことになります。参加は、西宮からは5人、他は、地元淡路の人たちが、今までは取り組んでこなかった広場周辺の竹や木などを伐採する作業になりました。

伏原町の畑では、毎週火曜日午前10時からおよそ1時間の作業をしています。「水はけ」の良くない場所が、雨で水につかったりしないよう、比較的盛り上がっている位置の土を、そこに移動させたりしています。

そして、少し遅くなりましたが、阪急電車の線路沿いには150球のチューリップの球根を植えました。

そんな時に、「チューリップの球根は、西宮のホームセンターで販売しているものにも“富山産”とあるのはなぜか」とか、「チューリップは、“種”ではなく、球根を植えるのはなぜか」などの「講義」が始まったりします。

園芸サークルは、畑の作業ばかりではなく、寒い冬やその日のお天気によっては、アートガレーヂに集まり、コーヒータイムや簡単な料理などを楽しんだりする予定です。12月2日（火）は届けていただいているかりんでの「かりんシロ

ップ作り」になり、参加者には1袋800グラムのかりんを持ち帰っていただきました。



スミレ

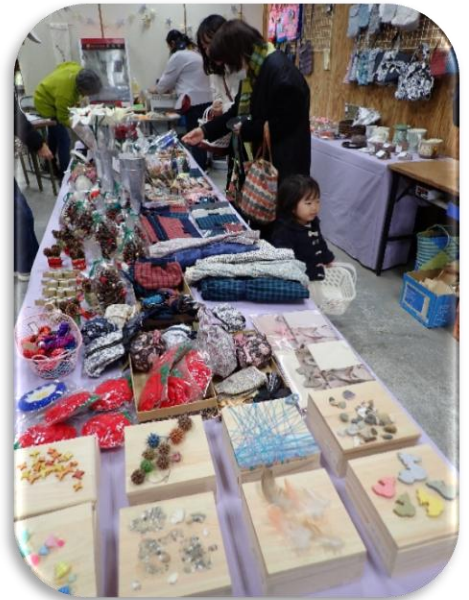
# あんなこと こんなこと

2025年12月4日(木)～6日(土)

## クリスマス手作りグッズ展

### アートガレーヂ

12組の人たちが出品してくださったグッズ展には、懐かしい方々をはじめ、ご近所の“はじめまして”の絵本作家さんなど、多彩な方々に足を運んでいただき、心より感謝いたします。おかげさまで、売り上げは約16万円を超え、そのうち3割を、自然災害の被災地、被災者の方々にお届けすることになりました。ありがとうございました。



2025年12月5日(金)18時～19時ごろ

## 関西神学塾 神戸女学院学生「先住民族アイヌを学ぶ」で、フィールドワークを通した学びの報告会

### 西宮公会教会 集会室

学生6名から、日本の先住民族「アイヌ」について、歴史・文化(宗教)・言語など幅広い学びの報告をして頂きました。北海道のアイヌゆかりの地などをフィールドワークでの様子が紹介され、現地で感じたことが丁寧に伝えられました。伝統と文化が十分に尊重されてこなかった歴史、土地や自然資源への先住権は認められていない現状、そして今後も続く差別問題などにも触れられ、とても解かりやすく心に残る報告会となりました。





2025年12月6日(土)

### 西宮公同教会 集会室

近江平安教会の鳥井新平先生が、5人の方々とともに訪ねてくださいました。学生さんや社会人など、年代も背景もさまざまな皆さんが集まってくださり、集会室では、いい交流のひとつを分かち合うことが出来ました。



2025年12月9日(火)

### 西宮公同幼稚園 園庭

先月号で紹介した新しい「こうどう」の旗。  
そのフラッグデザインを手掛けてくださったデザイナーの  
福井恵子さんが訪ねてくださいました。青空になびく旗を  
一緒に見上げる事ができ、とても嬉しいひとときでした。  
さらに、デザインに関わっていただいた「バンダナ」を頭に  
巻いて見せてくださるというお茶目な一面も見せてくださ  
った恵子さんでした。



## 福島東電の事故 そこから考える

### 地域を破壊する原発

紀伊半島は西に関西、東に名古屋があり、電力の大消費地と接しています。深く切り込んだリアス式の入り江がいくつもあります。原発適地です。ところが原発がありません。過去、和歌山県に5つ、三重県に4つの原発計画がありました。そのすべてが住民の反対で頓挫しました。

半島にはいくつもの浦があります。そこには漁村があります。住民は海の幸とともに自然と共生して生きてきました。三重県志摩半島の南に芦浜という風光明媚な入り江があります。ウミガメが産卵にくる静かな浜が三日月状に広がっています。この浜は南島町と紀勢町にまたがっています。南島町には7つの漁協がありました。

62年前、この浜に中部電力の原発計画が持ち上がりました。東海村に試験炉が稼働しているくらいで、まだともに稼働している原発はどこにもないころです。漁師さんたちにとって原発？ 中部電力の社員は「これから電力の需要が増します。原発は絶対安全です。芦浜に原発を作らせてください」と地元民に説明して回っていました。

そこで漁師さんたちは、日本で一番賢い人たちがいるらしい東京大学へ「原発のことを教えてください」と出かけました。

この頃、原子力発電は夢のエネルギー

でした。誰も疑いを持っていませんでした。だからでしょうか、東大の先生たちは率直にそのリスクとデメリットを教えてくださいました。

「原発はいいですよ～」と言いながら「もし爆発したら放射能が飛び散って深刻な汚染が長い間続きます」「温排水で海の環境が変わる恐れがあります」「核廃棄物の処理は何万年も管理する必要があります」と教えてくれました。まだ原発の危険性が認知されていないので先生たちもあけっぴろげだったのでしょうか。本当のことを教えてくれたそうです。

漁師さんたちは丁寧にメモをとりながら勉強しました。どうも原発は危ないものだということがよく分かったそうです。彼らは地元に戻って「原発が安全なら都会に作れ」と声を上げ始めました。

どうしても原発を建設したい中部電力は、国会議員たちの視察を企画しました。そのトップは中曽根康弘という人でした。

芦浜へ行くには山を越えて歩いていくのと海から行くルートがあります。山越えはかなり厳しいルートです。中曽根さんは巡視船で視察することにしました。

漁師さんたちは巡視船が停泊している長島町名倉港へ抗議行動の船団を出すことを決めました。あくまで抗議だけと申し合わせていたそうです。ところが芦浜のある古和浦漁協の船団は芦浜に向かったのです。

中曽根さんたちは、怒りの声を上げる漁師さんたちに包囲されました。巡視船に乗り込んで国会議員に面と向かって訴

える漁師さんもいたそうです。暴力は振るっていません。巡視船に傷がついたようですが…。

事件のあと、25 人の漁師さんたちが縄付きになりました。世にゆう「長島事件」です。ここに芦浜原発反対運動の幕が上がりました。この闘争は 3 世代に渡って闘われることになるのです。

芦浜原発計画は 1967 年にいったん止まりました。ところが中部電力は芦浜の用地を買収したままでした。計画をあきらめたわけではなかったのです。これまでの例でいうと用地を買収されると建設を止めることは困難です。

原発は国策です。原発建設には中部電力だけでなく、三重県も手を貸しました。地域振興部の職員が原発建設を推進するために地域に入り込んでいました。反対運動からは「地域破壊部」と揶揄されていました。原発に反対するということは、電力会社、行政、国という権力と闘うということです。

原発建設の法的手続きを見ると地元住民には決定権がありません。芦浜の場合、地元漁協が現地環境調査を受け入れるとあとは知事が同意するともう建設を止めることは手続き上、難しいのです。最終決定までに 2 回の公開ヒアリングがあります。1 回目は、通産省（現・経産省）、2 回目は原子力安全委員会（現・原子力規制委員会）が主催します。この場で電力会社や通産省の説明と地元住民の意見陳述が認められています。しかし形ばかりの公開ヒアリング。既成事実を積み上げ

るものでしかないのです。

この現状を突破するために南島町の漁民、住民は直接行動が基本としていました。漁協総会や町役場や議会へ地域住民が何かあると押し寄せるのです。

地元反対運動は外部の労働組合や政党の支援を受け入れませんでした。あくまで南島町の問題として、住民自身が考え、決めて、行動することを原則としていました。それができたのは、南島町の町長、議会、漁協の団結があったからです。

しかし闘争は地域に抜き差しならない分断を生み出しました。当時を知る古和浦の女性がこんな話をしてくれました。

「ちっちゃな子どもがよちよち歩いて道でこけますよね、誰でも子どもを起こしますよね、そのとき、顔を見てしまうんです。＼この子、どっちの子や＼って、推進派か、反対派かって、見てしまう」「隣の人が亡くなったと聞くと心の中で万歳！という自分がいた」。心が荒廃してしまっただけです。

しかし中部電力を中心した推進派はあきらめません。反対派の中核は漁協、とりわけ芦浜のある古和浦漁協だと狙いを定めて切り崩し工作を進めていくのです。地域は分断されました。先に記したような風景が住民に蔓延するのです。ついに古和浦漁協で推進派が多数になりました。南島町の残りの 6 漁協は反対の姿勢を崩していません。

ことここに至って反対派は、原発の是非を問うために三重県全体で署名活動を始めました。町と漁協がバスを借り、住

民を桑名から熊野まで送迎しながら署名を集めて回りました。スーパーの駐車場に立ち、買い物に来た人たちをお願いしたそうです。このころになると三重県教組などの労組も反対運動の支援を担うようになりました。結果 80 万筆を超える署名が集まったのです。

その署名を漁協の保冷車に積み込んで県庁へ運び、県知事に手渡しました。これに驚いたのは自民党県議会議員団でした。とにかく冷静に考えようと声明を出しました。

県も無視できなくなりました。当時の北川知事が現地へ入りました。初めて知事が直接、住民と向き合ったのです。賛成反対両方から 105 人の住民が知事に思っていることを伝えました。破壊された地域社会の現状を知事に何人もの住民が訴えました。意見陳述する住民もそれを聞く知事も泣いていたと言います。2000 年、北川知事は、芦浜原発計画を撤回したのです。

三重県南部の熊野市、海山町にも原発計画はありました。それらもすべて住民の粘り強い反対運動で中止に追い込んでいます。ここに私たちの民主主義の根っこを見るような気がします。民主主義はわたしたちが絶えず更新しないと生活の中に行き渡らないのだと思います。

原子力発電は、わたしたちに「豊かさ」をもたらすのでしょうか？ 地域社会を破壊してまでわたしたちは「豊かさ」を引き寄せないといけないのでしょうか？

そのむかし、鹿児島県志布志に工業コンビナート計画がもちあがったとき、「スモッグの下のビフテキより青空の下の梅干し」という有名なスローガンが掲げられました。「足るを知る」ことが大切なんですね。

(四方 哲)

※ロシナンテ社では福島のことを PDF 版「ロシナンテ通信」として配信中です。総天然色のページです！ 年間購読代 3600 円

ご希望の方は…shikatasatoshi@gmail へ



ハハコグサ

～♪ぼくのみる空と きみのみる空は  
つながっているから～

名護七曲（151）

「能力」

教会を挟んだ北側と南側でカラスが交互にカァカァ鳴いてまるで会話をしているようでありました。何を話していたのか話の内容までは明らかではなかったのですが、「カァ～」でコミュニケーションが成立しているのは、それはそれで凄いなあと思いました。多分「カァ」にも何種類かあって、状況に応じて使い分けられているのだと思います。「こっちに食べ物があるで」とか「昨日何時ごろ寝たん？」とか概ねそんなところではないかと思えます▼調べたらカラス語には 41 語あるそうです（Wiki）。鳥にしては意外と多いように思うのですが、人に比べたら断然少ないです。人間の場合、たとえばわたくしの手元にあります国語辞典（小型）では、収録されている見出しだけでも実に 8 万 2000 語。カラスの実に 2000 倍。オックスフォード英語辞典に至りましては 60 万語以上を採録といいますからもう意味が分かりません▼言葉は少な過ぎても伝わりにくいし、多過ぎてもどうせ使いこなせません。社会生活で困らない程度の語数っていったいどのくらいなのでしょうかね？ 数えたことないので分からないのですが、カラスが会話しているのを聞いていると、どうかしたら人間も本当は 40、50 語程度でイ

ケるんじゃないかって思えてきたりもしました。私たちは無駄に喋り過ぎなのかもしれません。それにやたら難しい言葉を使いたがりがち。「漸減」とかあまり日常会話で使う言葉ではないし、パッと見何て読むのか分かりません。普通に「だんだん減つとるなあ」でいいと思います▼外来語も昔に比べたら当たり前のようが増えて、今や機器の説明書も、聞いたことのないカタカナ単語のオンパレード。もはや説明書の説明書が必要なレベル。しかも近頃は説明書すら同梱されていないこともあり、「必要な人は製造元のウェブサイトにおいてあるからこの QR コードを読み取って自分で PDF をダウンロードしてこい」という始末。泣きそう▼さて鳥語の話ですが、教区のキャンプ場で草刈り作業をしていたらよく鳥が来ます。草を刈って這い出て来た虫を採りに来ているのだと思いますが、一昨年だったか実は一回だけ「何しよるんな？」って話しかけられたことがあります、鳥に。「え？は？」って思って、すぐにエンジンを止めて、その怪しげな鳥を私はじっと見つめていたのですが、それ以上何も言わず、鳥はパッと飛んで行ってしまいました。新たな能力かとも思ったのですが、…もしかしたら疲れてただけかもしれません。

（羽柴 禎）



# 大地震子ども追悼 井本英子コンサート

# 大地震子ども追悼 藪本栄衛 童子像展

1995年1月17日の兵庫県南部大地震で、18歳以下の子どもたちが514人亡くなりました。

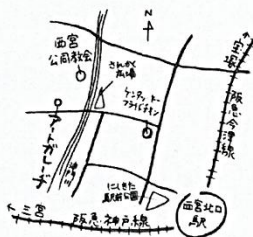
大地震子ども追悼 コンサート実行委員会は、亡くなった子どもたちを追悼する「大地震子ども追悼 コンサート」を実施してきました。1997年から2004年までは神戸朝日ホール及び松方ホール、2005年は神戸国際会館国際ホールで開催しました。そして11年目の2006年から2025年までは、西宮市高松公園で開催し、集まった子どもたち大人たちで、歌ってきました。

これからも、地震で亡くなった子どもたちを追悼する取り組みとして、31年目となる2026年1月17日、「大地震子ども追悼 井本英子コンサート」を開催し、併せて「大地震子ども追悼 藪本栄衛 童子像展」を開催いたします。

## 大地震子ども追悼 井本英子コンサート

日時：2026年1月17日（土）10時～11時

場所：アートギャラリー（西宮市南昭和町 10-19）



## 大地震子ども追悼 藪本栄衛 童子像展

日時：2026年1月17日（土）～25日（日）

場所：アートギャラリー（西宮市南昭和町 10-19）

藪本栄衛（やぶもと さかえ）

1953年 大阪に生まれる

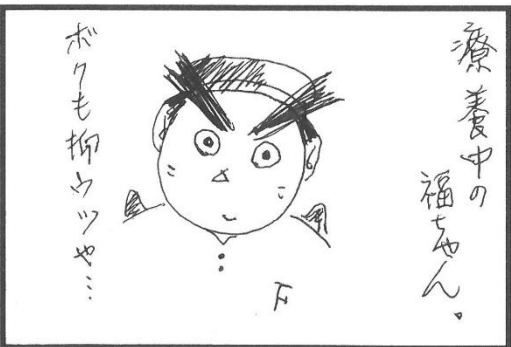
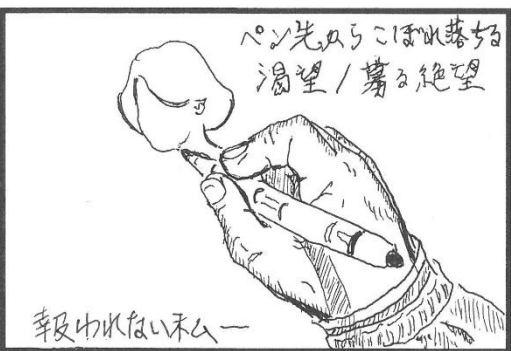
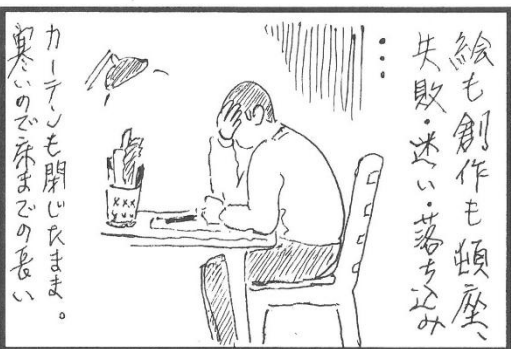
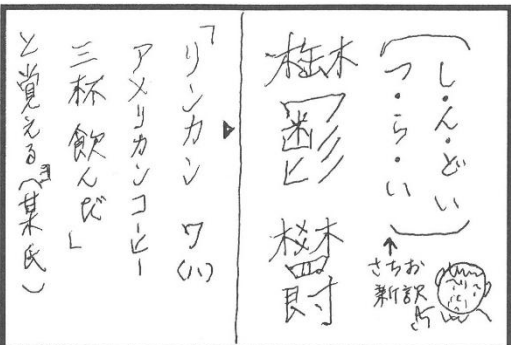
1975年 京都の陶芸家内田邦夫氏に師事

1986年～子どもをモチーフにした作品を作り始める



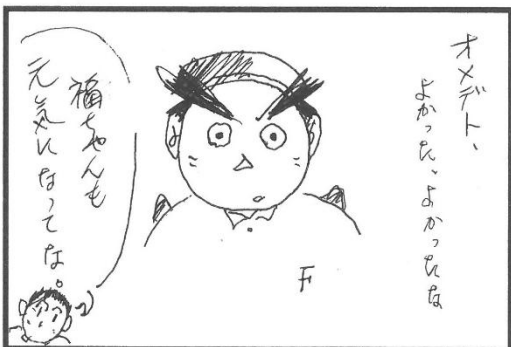
主催 大地震子ども追悼 井本英子コンサート・藪本栄衛 童子像展 実行委員会  
協力 被災者生活支援・長田センター、兵庫教区教育部、兵庫県南部大地震ボランティアセンター  
西宮公同教会 地域共同・共生支援活動・事業  
連絡先 西宮市南昭和町 10-19、アートギャラリー内 電話 0798-67-4691

くだらない絵を見て時代の不安を忘れる



表題は、日野原健司(大田記念美術館)主席学芸員〜

角力・野球 小 吐



2025.11/24/12.3朝日新聞より引用〜

# つとかいわ・あれこれ

東電の事故に対する「刑事告訴」の武藤類子さんから、お便りをいただきました。

「東電刑事裁判が、3月で集結しましたが、何一つ納得できず、何も解決もせず、怒りの矛先をどこに向けて良いのか分かりませんが、体は正直に肩の荷を下ろしたように不眠が和らいでいます。それがまた自分で許しがたく、何か気の沈むことです。」「現在、刑事裁判の報告書の作成を始めているところです。しかし、見渡すと、どんどんひどい世の中になり、自分が今何をすべきか、何ができるのかと、諦めと闘う日々です。」

そんなお便りの中、ケイト・ブラウンの「チョルノービリ・マニュアル」(訳:阿部純子・後藤倫代・繁沢敦子・藤田怜史・本行志忠、監訳:日野川静枝・ノーマフィールド/緑風出版、2025年)のチラシが入っていました。新聞の書評で手に入れ、読み始めていました。早速、武藤さんにお電話を差し上げ、その本の事、同じように同封されていた「あの日 風しもの町で起きたこと 東京電力・福島第一原子力発電所事故直後の福島県三春町での“安定ヨウ素剤”の配布」(「風しもの村 風しもの町」実行委員会 発行)の事などを話させていただくことになりました。

「チョルノービリ・マニュアル」は、著者のケイト・ブラウンが、あの事故についての「記録」を、徹底的に「足で稼いで、閲覧」するのと、「直接、当事者に出会って」、聞き取ったことを元に書いた「報告」です。

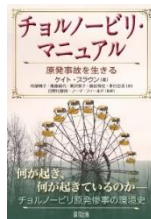
それが、ただの報告に終わらないのは、放射の及びその汚染についての問題意識があって始めて、その取り組みがあり、報告書が書かれているからです。

読み進めるほどにそのように読めました。

それを読み終えた後、「チョルノービリ・マニュアル」の日本語版の「監修者あとがき」で紹介されている、同じケイト・ブラウンの「ブルートピア 原子力村が生み出す悲劇の連鎖」(訳:高山祥子/講談社、2016年)を読んでいます。

核による地球規模の汚染が「チョルノービリ・マニュアル」と同じように「足で稼いで」「当事者に出会って」の形で考察されています。

(S)



まだ暑かった10月に予約していたシュトーレンが約束通り12月1日に届き、みんな大喜び。早速、夜のコーヒータイムに集まって包みを開き、真っ白な粉砂糖がまぶされた美しい姿にしばらく見とれる。切り分ける段になって、「えー、そんなに分厚く切ったら、24日まで持たないよ」とか、「あんまり薄いと食べた気がしないよ」とか、「毎日食べたら24日までもたないから、1日をおきにしたい方がいい」とか、シュトーレンの意味も知らずにワイワイと、かまびすしいこと。ほんとにクリスマスまで持てばいいけど、今のところビミョー!

(S)

「大阪府堺市の熱帯魚ショップに行くから」と、突然、夕方になって急に車を取りに来た下の息子。思えば、前にも同じような流れで連れていかれたような…。これで2度目。ワンルームの部屋には、もう十分に大きな水槽が2つもあって、そこには既に住人はいるはずなのに、それでもまだ買うつもりなのか。しかもメダカサイズではなく、かなり大きなディスクカスという種類。お店に着いたのは夜の7時前。「もう閉店ではないか」と、心配する私をよそに、彼は広い広い店内で、どの魚を見ても同じにしか見えない中から、真剣に品定めをしている。一方私は、大好きなメダカちゃんのために何かいいグッズはないかと、店内をウロウロ。気が付けば1時間以上も経っていました。「そろそろ帰ろうよ」と、催促しにいくと、ちょうど店員さんと交渉中。そしてやっと7匹をゲット。1匹ずつ、目隠しされたビニール袋に丁寧に入れられ、帰路へ。家に着いてからも、水温を合わせるだの、水質を合わせるだの、すぐには水槽に放せません。「こんなに手間のかかること、好きだったっけ?」と、改めてふーんと感心しながら帰る私。その私はといえば、メダカ用の水草を1つだけ買って帰りました。

(K)



ローズマリー